



エマデッディン・バギさん、釈放される！



エマデッディン・バギさん

“国家に関する宣伝活動”に関わる複数の罪で1年の禁固刑に処せられていたイランのエマデッディン・バギさんが釈放されました。問われた罪の一つは英BBCが放映したインタビューによるもので、もう一つは“囚人の権利を守る会”の創設に関連したものでした。

エマデッディンさんは、今後5年間、政治活動への関与を禁じられているものの、5年の服役を求める判決は控訴裁判所で覆されています。

エマデッディンさんは、イランにおける人権活動やジャーナリストとしての活動を理由に逮捕され、何度も投獄されています。一番最近の逮捕は、2009年12月、テヘランやその他の都市で起きた大規模抗議行動のさなかでした。

釈放前、エマデッディンさんは、2人の良心の囚人の死に抗議し、他の囚人とともにハンガーストライキを行っていました。エマデッディンさんは獄中で著しく健康を害しています。激痛の走る椎間板破裂のほか、以前獄中で過ごした際には、3回の心臓発作に苦しみ、腎臓と膀胱にも問題も抱えていました。

エマデッディンさんによれば、今のところ新たな告発はないとのことですが、イランの司法当局は、過去の事件を取り下げてはいません。

釈放される時、エマデッディンさんは後に残った囚人た

ちに「私は釈放されるが、私の半分はまだあなたたちと一緒にいる」と言ったそうです。

エマデッディンさんはアムネスティに「服役する必要のない多くの人たちが未だに投獄されているのですから、私が釈放されただけでは終わりにはなりません」と語りました。また、アムネスティの努力に対して「アムネスティは、まるで家族のようです。私たちの友人“チーム・アムネスティ”に敬意を表します。」と感謝の言葉を述べました。

イヌラ・ファトゥラヤフさんからの感謝のメッセージ



ファトゥラヤフさん

「アムネスティの活動家の皆さん、私は元良心の囚人、イヌラ・ファトゥラヤフです。先日、国際社会の努力のおかげで、念願の自由を獲得しました。皆さんによる飽くなき奮闘と支援のおかげで、私の人生を取り戻すことができました。

アゼルバイジャンの犯罪的な圧政は、4年間私を囚われの身としました。さまざまな監獄を転々とさせ、長く投獄することにより、圧政に対し立ち向かうジャーナリストの勇気をくじくのが当局の目的でした。生死の境もさまよいました。

たくさん不正やその悪事の担い手を目撃しました。私はこの経験を通して、私の国の将来を破壊する腐敗した盗人を自分の視点で報道するよう努力しました。

目下、私は人生の立て直しを図っているところです。拷問部屋での体験は、通常の生活のリズムを止めてしまっています。暴力は人間の生命力と生存能力を奪うものです。しかし、私の魂に希望の炎をともし続けてくれたのは、友人であり救い手であるアムネスティの皆さん方です。はるか遠くの絶望的な状況の中で、私は皆さんからのメッセージを受け取りました。メッセージは、私の魂に安らぎを与え、希望を呼び起こしてくれました。

また、皆さんは、私の家族も死から救い出してくれました。このことは一生忘れません。感謝しています。冬の日も夏の日も、暗い日も明るい日も、私は監獄に一人きりで居たわけではありません。それは、他でもないアムネスティの皆さんのおかげなのです。

私の読者や支援者、アゼルバイジャンの多くの人びとは、これ以上の追訴を逃れるために私が国を離れたほうが良いと言います。しかし、抑圧されたアゼルバイジャンの社会を見捨てることは、私にはできません。私と同じように救済され釈放されることが必要だからです。どんな時にも、アムネスティが唱える理念を実現するために働くことが私の使命です。この世界を、不正義の状態から救うのが私たちの使命です。これを実現させるためには、私たちの良心を行動に移すことが大切なのです。

私の好きな小説家のファジル・イスカデルは、以下のように述べています。『歴史上、良心を柱に国づくりをした人はいない。良心だけでつくるという意味ではなく、主要なものとして用いるという意味で。もし良心で人びとを治めることができるのであれば、それは、神だけであろう。神は、その息子を通して実現しようとした。しかし為政者の中に、あえてそれをやろうとする者はいないだろう。』

皆さんの、良心と神に基づく行動に深く感謝し、改めてお礼を申し上げます。 敬具

未だ自由ではない国にいる、良心の囚人
イヌラ・ファトゥラヤフより」

チェキブ・エルキアリさんからのメッセージ



チェキブ・エルキアリさん

4月に行われた国王による恩赦・釈放の後、アムネスティのモロッコ・チームはチェキブ・エルキアリさんと連絡を取ることができました。釈放に向けたアムネスティの活動についてチェキブさんは以下のようなメッセージを送ってくれました。

「私の両親や家族のために行なって下さった皆さんの活動に対して、言葉では表現できない程の感謝を申し上げます。皆さんから受け取った手紙は、私や家族に苦難を乗り切るエネルギーを与えてくれました。

手紙には、世界中の5～10歳といった幼い子どもたち送られたものもありました。彼らの手紙には不思議な力がありました。私を奮い起こし、拘留や不当な有罪判決に耐える強さを与えてくれました。毎週、私は子どもたちの手紙を心待ちにしていました。5分、またはそれ以上の時間を費やして手紙を書いたり絵を描いたりしてくれる子どもたちのことを思いながら、何度も何度も読み返しました。子どもたちの5分間、私に2年間の不当な投獄に耐えるエネルギーを与えてくれたのです」

緊急行動に関する明るいニュース：チャド

チャドの首都ンジャメナにあるアンバッタでは、10,000人を超える人びとが、強制立ち退きの危機を脱しました。

アンバッタ住民の権利保全と政府との交渉を担うアンバッタ委員会は、チャド政府がアンバッタ地域の再開発の要望を受け入れたこと、またそのプロセスを監視するための委員会が設立されたことをアムネスティに報告しました。

アンバッタ委員会は「私たちの戦いにおいて、アムネスティの活動はとても重要で有益でした。結果として立ち退きを阻止することができました。アムネスティはアンバッタ地域の何千もの住民に希望を取り戻してくれました」と、住民に代わって、アムネスティのメンバーに感謝を伝え、もし強制立ち退きがあのまま行われていたら住民の生活は破壊されていただろう、と述べました。

(2011年6月29日アンバッタ委員会)

UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-2 共同ビル(新錦町)4F
TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778
E-mail:uaoffice@amnesty.or.jp

UA年会費 3000円
郵便振替 00120-9-133251
加入者名 社団法人アムネスティ・インターナショナル日本